

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between paternal involvement in childcare and child injury: the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

父親の育児行動と子どもの受傷との関連: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pediatrics

年: 2025 DOI: 10.1186/s12887-025-05453-7

筆頭著者名: 島田 佳奈子

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

これまでに、生後 6 か月までの子どもへの父親の育児行動が、生後 18 か月までの子どもの受傷を予防できることは先行研究で示されているが、生後 18 か月以降の子どもとの受傷との関連は明らかにされていない。そこで、本研究では生後 6 か月時の父親の育児行動と生後から 4 歳までの子どもの受傷との関連を検討した。

方法:

エコチル調査に登録された 72,343 人の母親のデータを用い、生後 6 か月時での父親の育児行動 7 項目と、生後から 4 歳までに発生した外傷と熱傷の有無との関連について、多項ロジスティック回帰分析を行い、オッズ比(OR)と 95%信頼区間(CI)を算出した。育児行動の 7 項目は、室内遊び、屋外遊び、授乳、おむつ交換、着替え、入浴、寝かしつけの 7 項目を「まったくしない」、「ほとんどしない」、「ときどきする」、「いつもする」の 4 項目のリッカート尺度を用いて評価した。回答から合計点を算出し(0~21 点)、低得点群(0~11 点)、中得点群(12~14 点)、高得点群(15~21 点)の 3 群に分けた。

結果:

生後 6 か月時の父親の育児行動と子どもの外傷、熱傷の受傷リスクとの関連では、育児行動 7 項目の合計得点が高い群において、外傷の低いリスクと関係があった。生後 6 か月時の父親の育児行動の項目ごとに子どもの受傷との関連を見ると、外傷では父親が子どもとの室内遊び、外遊び、子どもの食事の世話、入浴の世話、寝かしつけを「まったくしない」よりも「ほとんどしない」、「ときどきする」、「いつもする」方が子どもの受傷リスクは低かった。父親の育児行動と子どもの熱傷との関連は示されなかった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では子どもが生後 6 か月時点での父親の育児行動と生後から 4 歳における子どもの受傷との関連を検証し、子どもが生後 6 か月の時に父親が育児に参加していることが、4 歳までの子どもの外傷の低いリスクとの関連を示したが、熱傷の受傷リスクとの関連は示されなかった。本研究データの父親の育児行動は子どもが生後 6 か月という 1 時点での状況を尋ねた横断的データであるため、生後 6 か月から 4 歳までの間の父親の育児行動については不明である。また、子どもの受傷状況や重症度等は不明であり、あらゆる傷害を網羅できていないため、引き続き父親の育児行動と子どもの受傷との関連性を検討する必要がある。

結論:

生後 6 か月時における父親の育児行動は子どもの外傷の発生リスクの低下と関連していた。また、父親の育児行動に関する 7 項目のうち 5 項目で、外傷に対する保護的効果の可能性が示された。